

公開研究会：東日本大震災における高齢者・障害者の被災実態と居住復興の課題

CPD 申請中

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、岩手、宮城、福島沿岸部を中心に大きな被害をもたらした。今回の震災により大きな被害を受けた、高齢化の進んだ農村・漁村地域には、多くの高齢者・障害者が生活しており、在宅生活であった者、施設等で生活していた者、いずれにおいても多くの被災者を生じる結果となった。震災発生から1年近くが経とうとしているが、大震災、大津波による被害が広範囲にわたったこと、地元の市町村役場をはじめ福祉施設、事業所や社会福祉協議会など、高齢者、障害者の生活を支える機関や人が被害を受けたことなどから、高齢者・障害者の被災の実態や生活支援の課題、今後の生活復興の展望などについて、まだ十分に明らかになっていないのが現状である。

以上のような現状認識にもとづき、今回の公開研究会においては、高齢者・障害者の住まいや入所施設での被災の実態、福祉避難所・仮設住宅における生活実態やその支援の課題、そして今後の居住生活の復興に向けての課題などについて、大震災発生以降、被災地域における支援に深く関わってこられた3人の方々にご報告をお願いし、東日本大震災被災地における高齢者・障害者のこれからの居住復興の課題と展望について議論する場としたい。

主 催： 建築計画委員会 住宅計画運営委員会 高齢者・障害者等居住小委員会

日 時： 2月25日（土） 13：30～17：00

会 場： 建築会館会議室（港区芝5-26-20；JR田町駅徒歩5分）

プログラム：

13：30～13：40 主旨説明：児玉善郎（日本福祉大学／小委員会主査）

13：40～14：10 報告1：東日本大震災における高齢者施設の被災実態と復興の課題
佐々木 薫（仙台楽生園ユニットケア施設群総括施設長）

14：10～14：40 報告2：東日本大震災における福祉避難所運営の実態と復興に向けての課題
鈴木 徳和（社会福祉法人石巻祥心会事業本部長）

14：40～15：10 報告3：東日本大震災の仮設住宅地における被災者の地域支え合いの実践課題
池田 昌弘（特定非営利活動法人 全国コミュニティライフ
サポートセンター理事長）

15：20～16：50 全体討論

16：50～17：00 まとめ

定 員：50名（申込先着順）

参加費：会員2,000円 登録メンバー2,500円 会員外3,000円 学生1,000円

申込方法：E-mailにて、催物名称、参加費種別（会員番号）、勤務先・所属を明記してお申込み
ください。（定員に達した場合のみお断りの連絡をいたします）

申込み・問合せ先：日本建築学会 事務局研究事業部 森田 morita@aj.or.jp